

## 第7回高齢社会対策大綱の策定のための検討会 事前資料を拝見して感じたポイント

### ■全体として

高齢社会を課題山積みのネガティブな要素満載という文脈でのみ語るのではなく、ポジティブな要素もあえて記載する必要がある  
高齢当事者の生きづらさ、世代間抗争を助長するような大綱にならないように意識する

### ■気になったポイント

#### - 健康へのステレオタイプのとらえ方

これまで定義づけられてきた「健康寿命」の延伸は大事

これだけがクローズアップされるのではなく、成熟社会の日本だからできる「ポジティブヘルス」の追求といった視点を大綱全体に基本的な考え方として入れ込むことが重要  
(項目別にみていくと、健康寿命のみが重要であるように読み取れる記載もある?)

#### - 自己決定できることをサポート、支える

自己決定といわれてもどうしたいかがわからない人からも丁寧に引き出す  
決定するために選択肢を増やしていくなど  
全ての人の自己決定を応援することの重要性を明示した方がよい

#### - 介護求職・離職の記載

ネガティブな点のみがクローズアップされているが、介護に関わることで得る学びについても触れた方がよい

育休について、かつてはキャリアが途絶えるなどの話に注目されていたが、今は育休を取ることで得られる効用にも目が向くようになっている

#### - 担い手育成にむけた学び

多様な担い手像がある

地域の在り方自体に変革が求められているなど

担い手、それを支える専門職などへの学びの機会を設けていくことも重要

#### - 身寄りのない高齢者

一人暮らしをひとつのライフスタイルとして、一人を選ぶ人に対して、必要な備えを早めに伝えていくことも重要

経済的な側面のみならず、終の棲家である地域や近隣との接点の持ち方なども含めたトータルな備え

(近隣と没交渉だった人が歳をとったからつながりづくりをするということは稀有、イギリスでは社協の様な主体が中年層に積極的に働きかけるという動きもある)